

令和6年度岩手県小・中学校学習定着度状況調査結果

＜調査目的＞ 各小・中・義務教育学校において、児童生徒一人ひとりの学習の定着状況と分析結果から**つまずきの内容や要因等を把握し、一人ひとりを伸ばす指導の充実を図る**。また、明らかになった学習指導上の問題点を、各種研修会や学校訪問指導等の様々な教育施策に反映させることにより、本県すべての教員の指導力向上に資する。

【教科調査結果概要】

	小5 国語	小5 算数	中2 数学	中2 英語
平均正答率	58.6%	50.2%	43.4%	44.0%
知識・技能	67.2%	61.2%	52.6%	46.4%
思考・判断・表現	53.3%	41.5%	29.6%	42.3%

【調査結果からうかがえる学校の取組状況】

- ・小、中、どちらの校種においても、定着が図られていたり、改善が見られたりした小問が多く見られ、検証改善サイクルに基づく授業改善の取組が進められていることや、それらの成果がうかがえる。不十分な点については、引き続き検証改善が必要。
- ・特に、基礎的・基本的な内容の定着や、「思考・判断・表現」の小問正答率については、引き続き課題が残る。
- ・無解答率の高い小問については、学習指導要領が育成を目指す「思考力、判断力、表現力等」を意識した授業実践の充実が急務。
- ・教科調査における正答数ごとの分布状況は例年と同様。極端な落ち込みは見られていないものの、各層に対する指導の充実は引き続き課題。
(小5国語では、平均正答数が昨年度から1.4問下がり、分布が左寄りである。)
- ・学校質問調査の結果では、「学校の組織的な取組・業務改善」に係る項目において、小中ともに「積極肯定」回答の割合が増加傾向。

【今後の取組等】

- ・各学校においては、平均正答率の増減のみにとらわれるのではなく、調査結果を生かした取組の充実に関与することが重要。
- ・教科調査を実施した10月2日（水）以降、各学校においては、調査目的を踏まえた、「児童生徒一人ひとりを伸ばす指導の充実」が進められているところ。
- ・また、各学校においては、小問ごとの結果を踏まえ、これまでの教育課程の在り方についての検証改善が適切に実施されることが求められる。
- ・特に、教科全体の平均正答率の増減にとらわれず、小問ごとの結果を踏まえ、今後の指導上の課題となる「内容」や「資質・能力」を洗い出し、全学年の指導計画の改善に生かす取組が加速化されることが期待される。
- ・文科省や県教委が作成した各種調査結果資料については、「積極的活用」の状況が見られるものの、「継続的なCAPDサイクルによる検証改善」の推進状況には、引き続き大きな課題が残る。特に、授業改善の加速化に向けて「授業アイディア例」等の効果的な活用が求められる。
- ・「確かな学力の育成」に向けた、「学習指導要領の着実な実施」、「学校の組織的な取組・業務改善」、「教員の授業力向上」の充実に係る相談や研修等の実施については、33市町村教委や県教委による各種学校支援事業による積極的支援により対応可能。

I 調査概要

1 目的

各小・中・義務教育学校において、児童生徒一人ひとりの学習の定着状況と分析結果からつまずきの内容や要因等を把握し、一人ひとりを伸ばす指導の充実を図る。

また、明らかになった学習指導上の問題点を、各種研修会や学校訪問指導等の様々な教育施策に反映させることにより、本県すべての教員の指導力向上に資する。

2 調査対象

調査内容	実施日	調査対象	対象校	対象人数
教科調査 児童生徒質問調査	令和6年10月2日(水)	公立小学校第5学年・義務教育学校第5学年	266校	9,004人
		公立中学校第2学年・義務教育学校第8学年	144校	9,389人
学校質問調査 (Microsoft Formsでの オンライン回答)	令和6年9月25日(水) ～10月2日(水)	公立小学校及び義務教育学校(前期課程)	266校	-
		公立中学校及び義務教育学校(後期課程)	144校	-

3 実施状況

実施学年(実施校数)	教科調査①	教科調査②	児童生徒質問調査	学校質問調査
小学校第5学年(266校)	国語 8,370人	算数 8,366人	8,367人	266校
中学校第2学年(144校)	数学 8,393人	英語 8,387人	8,387人	144校

II 結果概要

1 教科調査の結果

(1) 各教科の平均正答率及び中央値

小学校5年			中学校2年		
教科	平均正答率 ()はR5	中央値	教科	平均正答率 ()はR5	中央値
国語	58.6% (64.7%)	58.3%	国語	- (57.4%)	-
算数	50.2% (55.3%)	52.0%	数学	43.4% (44.6%)	40.0%
			英語	44.0% (-)	41.7%

(2) 小学校5年国語

①観点・領域等の平均正答率

観点・領域等		平均正答率 ()内は R5	経年比較
知識・技能	9 問	67.2 % (70.5%)	▼ 3.3
思考・判断・表現 (話すこと・聞くこと)	4 問	57.0 % (69.2%)	▼12.2
思考・判断・表現 (書くこと)	4 問	55.8 % (63.1%)	▼ 7.3
思考・判断・表現 (読むこと)	7 問	49.8 % (59.1%)	▼ 9.3

※○は「比較的できている」、△は「改善の傾向が見られる」、▲は「つまずきの要因を分析する必要がある」、●は「引き続き課題」と考えられる小問。

ア [知識及び技能]	R5	R6	比較
● 漢字の由来、特質について理解する	57.5%	46.0%	▼11.5
▲ 文脈に沿って、漢字を適切に使う	83.2%	75.0%	▼8.2
○ 文脈に沿って、語句を適切に使う	85.8%	80.7%	▼5.1
▲ 国語辞典の使い方を理解する	61.0%	57.3%	▼3.7
イ [思考力, 判断力, 表現力等] (話すこと・聞くこと)			
▲ 意図に応じて、話の内容を捉え、適切な質問をする	85.4%	69.0%	▼16.4
・ 話の中心を意識して、問の取り方などを工夫する	74.2%	-	-
△ 話し合いの適切な進め方を捉える	46.8%	69.3%	△22.5
ウ [思考力, 判断力, 表現力等] (書くこと)			
○ 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文章を整える	62.4%	60.9%	▼1.5
▲ 自分の考えを伝えるための書き表し方を工夫する	68.1%	47.6%	▼20.5
● 本問 (小問 24) の無解答率	15.3%	15.7%	△0.4
● 段落構成を考えながら指定された長さの文章を書く	59.1%	57.7%	▼1.4
● 本問 (小問 23) の無解答率	14.6%	14.6%	0
エ [思考力, 判断力, 表現力等] (読むこと)			
▲ 登場人物の心情について描写を基に捉えて読む (心情を捉える)	74.0%	44.0%	▼30.0
● 目的に応じて、必要な情報を見つけて読む (記述)	33.2%	29.2%	▼ 4.0
● 登場人物の行動について叙述を基に捉えて読む	57.1%	58.4%	△1.3
● 登場人物の心情について描写を基に捉えて読む (描写に着目する)	44.5%	30.2%	▼14.3

②経年比較問題の状況

ア [知識及び技能]	R5	R6	比較
● 修飾と被修飾との関係を理解する	39.6%	39.6%	0
イ [思考力, 判断力, 表現力等] (話すこと・聞くこと) ※該当なし			
ウ [思考力, 判断力, 表現力等] (書くこと)			
● 自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして文章を書く	57.3%	47.6%	▼ 9.7
エ [思考力, 判断力, 表現力等] (読むこと)			
● 段落相互の関係に着目して読む	66.0%	52.9%	▼13.1
○ 場面の展開を捉えて読む	50.3%	73.1%	△22.8

(3) 小学校5年算数

①観点・領域等の平均正答率

観点・領域等		平均正答率 ()内 R5	経年比較
数と計算	9 問	53.8% (52.4%)	△ 1.4
図形	9 問	55.2% (62.2%)	▼ 7.0
測定	－	－	－
変化と関係	3 問	53.9% (49.1%)	△ 4.8
データの活用	4 問	50.4% (78.2%)	▼ 27.8
知識・技能	11 問	62.7% (65.4%)	▼ 2.7
思考・判断・表現	14 問	41.5% (54.7%)	▼ 13.2

※○は「比較的できている」、△は「改善の傾向が見られる」、▲は「つまずきの要因を分析する必要がある」、●は「引き続き課題」と考えられる小問。

ア〔数と計算〕	R5	R6	比較
○ 四則混合の計算ができる	88.3%	80.4%	▼ 7.9
● 2つのものの基準量と比較量から割合を求めて説明することができる	21.3%	26.3%	△ 5.0
イ〔図形〕			
△ 三角定規を組み合わせてつくった角度を、加法を用いて求めることができる	－	58.9%	－
△ 三角定規を組み合わせてつくった角度を、減法を用いて求めることができる	28.5%	59.0%	△30.5
ウ〔変化と関係〕			
○ ともなって変わる2つの数量の関係を使って問題を解くことができる	87.3%	84.2%	▼ 3.1
● ともなって変わる2つの数量の関係を理解し、求める式の意味を説明することができる	11.1%	29.7%	△18.6
エ〔データの活用〕			
・ 調べた数字が二次元表のどのマスにあてはまるのかがわかる	83.9%	－	－
・ 二次元表を読み取り対象の数字が何を表しているのかがわかる	83.3%	－	－
● 二次元表に整理して、マスにあてはまる数を求めることができる	－	11.2%	－
・ 折れ線グラフと棒グラフを組み合わせたグラフを正しく読み取ることができる	86.5%	－	－
○ 問題にあった(2つの)折れ線グラフを読み取ることができる	－	87.9%	－
● 折れ線グラフと棒グラフを読み取り、それを根拠に示された事柄が正しくない理由を説明することができる	44.1%	17.7%	▼26.4

②経年比較問題の状況

	R5	R6	比較
● 2つのものの基準量と比較量から割合を求めて、ねだんがより高くなった品物はどちらかを説明することができる	21.3%	26.3%	△ 5.0
● 示された除法の式の意味を理解している	44.7%	33.5%	▼11.2
△ 三角定規を組み合わせてつくった角度を、減法を用いて求めることができる	28.5%	59.0%	△30.5
● ともなって変わる2つの数量の関係を式に表すことができる	49.0%	47.9%	▼ 1.1
● 折れ線グラフと棒グラフを読み取り、それを根拠に示された事柄が正しくない理由を説明することができる	44.1%	17.7%	▼26.4
● 直方体を組み合わせた形の体積の求め方を理解し共通する求め方を説明することができる	31.0%	30.6%	▼ 0.4

(4) 中学校2年数学

①観点・領域等の平均正答率

観点・領域等		平均正答率 ()内は R5	経年比較
数と式	9 問	43.6% (46.2%)	▼ 2.6
図形	6 問	30.2% (43.1%)	▼12.9
関数	6 問	51.9% (54.8%)	▼ 2.9
データの活用	4 問	50.2% (27.9%)	△22.3
知識・技能	15 問	52.6% (52.0%)	△ 0.6
思考・判断・表現	10 問	29.6% (35.1%)	▼ 5.5

※○は「比較的できている」、△は「改善の傾向が見られる」、▲は「つまずきの要因を分析する必要がある」、●は「引き続き課題」と考えられる小問。

ア〔数と式〕	R5	R6	比較
▲ 簡単な1元1次方程式を解くことができる	71.9%	65.4%	▼ 6.5
△ 素因数分解を理解している	39.2%	74.4%	△35.2
● 一次方程式をつくり、解の吟味を行い、不適である理由を説明することができる	－	24.0%	－
イ〔図形〕			
▲ 底面と高さから、複数の立体の体積の大小関係がわかる	58.6%	50.0%	▼ 8.6
● コンパスで120°が作図できた理由を説明することができる	－	10.0%	－
ウ〔関数〕			
○ 与えられたグラフを事象に応じて的確に読み取ることができる	79.0%	87.6%	△ 8.6
△ 比例のグラフから式を求めることができる	19.2%	50.8%	△31.6
● 1次関数の変化の割合について理解している	－	37.2%	－
エ〔データの活用〕			
● 多数回の試行の結果から得られる相対度数の意味を理解している	18.2%	40.0%	△21.8

②経年比較問題の状況

	R3-5	R6	比較
▲ 2元1次方程式の解について理解している	62.5%	53.3%	▼ 9.2
● 1次関数の意味を理解している	34.4%	33.0%	▼ 1.4
● 2つの1次関数のグラフをもとに、日常の事象に関する数量を求めることができる	30.0%	35.1%	△ 5.1
● 図形を回転移動させるとき、「回転の中心」「○°だけ回転」などを用いて移動の仕方を説明できる	7.4%	14.0%	△ 6.6
● コンパスで120°を作図できる理由を、図形の性質をもとに説明することができる	12.7%	10.0%	▼ 2.7
▲ 度数分布表から累積度数を求めることができる	66.9%	68.7%	△ 1.8

(5) 中学校2年英語

①観点・領域等の平均正答率

観点・領域等		平均正答率 ()内は R5	経年比較
聞くこと	6 問	60.9% (-)	-
読むこと	8 問	44.4% (-)	-
話すこと (やり取り)	-	-	-
話すこと (発表)	-	-	-
書くこと	10 問	33.5% (-)	-
知識・技能	10 問	46.4% (-)	-
思考・判断・表現	14 問	42.3% (-)	-

※○は「比較的できている」、△は「改善の傾向が見られる」、▲は「つまずきの要因を分析する必要がある」、●は「引き続き課題」と考えられる小問。
(ただし、R5 全国学力・学習状況調査での小問正答率を参考にしたもの)

聞くこと	R5	R6	比較
○ 状況の描写を聞き、情報を正確に聞き取ることができる	-	87.9%	-
○ 日常の場面における対話を聞き、情報を正確に聞き取ることができる	-	70.3%	-
● 日常的な話題について、目的に応じで英語を聞き、必要な情報を聞き取ることができる	-	33.6%	-
読むこと			
○ 日常的な話題について、対話を読み、適切な応答を選ぶことができる (小問 7)	-	60.3%	-
○ 日常的な話題について、対話を読み、適切な応答を選ぶことができる (小問 8)	-	76.5%	-
△ 日常的な話題について、対話を読み、適切な応答を選ぶことができる (小問 9)	-	50.8%	-
● 日常的な話題について、短い文章の概要について捉えることができる	-	21.3%	-
書くこと			
△ 接続詞 (when) を含む文の語順を理解し、正確に書くことができる ※無解答率 4.6%	-	50.9%	-
△ 接続詞 (be going to) を含む文の語順を理解し、正確に書くことができる ※無解答率 4.9%	-	59.1%	-
● テーマに沿って、3 文以上のまとまりのある英文を書くことができる ※無解答率 44.9%	-	20.4%	-

②類似問題の状況 (R5 県学調では英語の調査を実施していないため、R5 全国学力・学習状況調査での小問正答率を参考にしたもの)

	R5	R6	-
○ [聞くこと] 状況の描写を聞き、情報を正確に聞き取ることができる	68.1%	87.9%	-
○ [聞くこと] 日常の場面における対話を聞き、情報を正確に聞き取ることができる		70.3%	
● [読むこと] 日常的な話題について、短い文章の概要について捉えることができる	30.8%	21.3%	-
△ [書くこと] 社会的な話題に関して、読んだことについて、考えとその理由を書くことができる	12.3%	32.2%	-
● [書くこと] 対話文の文脈から場面を理解し文法事項や言語の働きを理解して正確に書くことができる	24.1%	29.0%	-
● [書くこと] 対話文の文脈から場面を理解し文法事項や言語の働きを理解して正確に書くことができる		39.2%	
● [書くこと] 対話文の文脈から場面を理解し文法事項や言語の働きを理解して正確に書くことができる		26.0%	

(6) 教科調査結果の活用と今後の取組

①本資料の作成においては、授業改善の視点から、各領域・観点で特徴的な結果となった小問をできるだけ多く取り上げた。

②「平均正答率」についての留意点

各年度の問題の難易度を厳密に調整する設計とはしておらず、年度によって出題内容も異なることから、過年度の結果と単純に比較することは適当ではない場合があること。

③教科調査の結果から ※調査により測れるのは学力の一側面であることに留意。

各学校における授業改善の状況について

ア 小、中、どちらの校種においても、定着が図られていたり、改善が見られたりした小問が多く見られ、**検証改善サイクルに基づく授業改善の取組が進められていることや、それらの成果がうかがえる。**不十分な点については、引き続き検証改善が必要である。

イ 特に、調査対象となった領域・観点等における課題が見られた**個々の問題や領域等に**着目して、**学習指導上の課題を丁寧に把握・分析し、児童生徒一人ひとりの学習の定着状況と分析結果からつまずきの内容や要因等を把握し、一人ひとりを伸ばす指導の充実を図ることが引き続き求められる。**

ウ 指導の一層の充実を図るため、以下の事項を参考にし、**今後の取組を推進することが必要。**

④「確かな学力育成プラン」を用いた、今後の検証改善の際に注視したい check（把握・分析）の例

- ・児童生徒に身に付けさせたい資質・能力は身に付いたか
- ・どんな指導が効果的だったか
- ・基礎的・基本的な内容の定着は十分だったか
- ・指導が不十分である内容は何か
- ・学習指導要領で育成を目指す「知識及び技能」のうち、何が児童生徒に身に付いたか
- ・学習指導要領で育成を目指す「思考力、判断力、表現力等」のうち、何が児童生徒に身に付いたか
- ・「学校が育成を目指す資質・能力」が児童生徒に身に付いたかどうかを測るための指標をどのように計画するか
- ・今後の諸調査を、学校としてどのように活用するか

⑤校内研修等の充実

- ・本調査結果について課題の見られた点を中心に、教職員の指導力の向上、指導内容や指導方法等の改善を図るため、校内研修等を適切に実施すること。
- ・その際、各種資料等（「具体は、本調査の「学校質問調査」番号 24～27 に例示）を積極的に活用すること。
- ・また、調査結果の分析・検証の結果については、学校全体で共有し、調査実施学年以外の学年や調査実施教科以外の教科等の指導改善等にも活用すること。

⑥自校が作成した「確かな学力育成プラン」を活用し、継続的な検証改善サイクルを確立すること

＜取組の例＞ ※「令和6年度学習定着度状況調査実施の手引」に記載の内容と同様。

- ・「調査問題のねらい」、「授業実践アイディア例」等を活用し、自校の課題を洗い出す。
- ・校長のリーダーシップの下、全教職員によるカリキュラム・マネジメントの視点から、各学年・各教科等で確実に育成したい資質・能力を明らかにするとともに、単元の指導計画等に位置付ける。また、検証改善サイクルの見直しを図り、授業改善を推進する。
- ・校内研究計画等との関連を図り、児童生徒に身に付けさせたい資質・能力を明確にした授業づくりの実践を充実させるとともに、教員の授業力向上につなげる。

＜参考＞ 令和6年度岩手県小・中学校学習定着度状況調査 学校質問調査

質問項目	回答項目	小学校		中学校	
		R5	R6	R5	R6
岩手県小・中学校学習定着度状況調査（教科）の結果分析の際、どの資料を用いて行っていますか。（複数回答可）	調査問題のねらい	71.0%	74.4%	49.7%	65.3%
	授業改善の手引き（授業実践のアイディア例を含む）	76.6%	74.1%	64.8%	66.7%
諸調査の結果や日々の授業から明らかになった児童生徒のつまずきに着目した授業改善を行っていますか。	行っている（積極肯定）	46.1%	50.8%	27.6%	29.9%

＜参考＞ 令和6年度全国学力・学習状況調査 学校質問調査

質問項目	回答項目	小学校	中学校
児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか。	よくしている（積極肯定）	45.3% （全国比 △4.9）	37.2% （全国比 ▼3.3）
令和5年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか。	よく行った（積極肯定）	30.3% （全国比 ▼1.3）	20.9% （全国比 ▼6.2）

※本県の「学校教育指導指針」においては、各種調査結果やデータ等に基づく現状把握と原因分析を初めに行うことが重要であることから一連の検証改善サイクルを「CAPDサイクル」としている。

⑦上記の取組を通じて、児童生徒一人ひとりの学習の定着状況と分析結果からつまずきの内容や要因等を把握し、一人ひとりを伸ばす指導の充実を図ること。

2 児童生徒質問調査・学校質問調査の結果

(1)「いわて県民計画(2019～2028)」第2期アクションプランに掲げる指標に係る質問に対する回答結果

<児童生徒質問調査> ※□は目標値を上回った回答率。

質問項目	小学校			中学校		
	R5	R6	R6 目標値	R5	R6	R6 目標値
自分の住む地域には、良いところがあると思いますか。(積極肯定回答)	70%	71%	73%	54%	54%	57%
学校の宿題だけでなく、自主学習に取り組んでいますか。(自主学習とは、自分で学習内容を決めて取り組むことを意味します)(肯定回答)	60%	59%	64%	53%	53%	58%
人が困っているときは、進んで助けようと思いますか。(積極肯定回答)	65%	65%	70%	66%	65%	68%
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。(肯定回答)	73%	74%	78%	75%	76%	82%
学校や地域が行う体験活動では、達成した喜びややりがいなどを感じることができましたか。(肯定回答)	90%	89%	86%	88%	89%	86%
学校で行う鑑賞教室や文化芸術に関する学習、地域に伝わる伝統活動などを通じて、文化芸術への興味がわきましたか。(肯定回答)	69%	71%	73%	64%	65%	70%
児童会活動(生徒会活動)や学級活動などで、学級生活をよりよくするために話し合い、互いの良さを生かして解決方法を決めていますか。(肯定回答)	86%	86%	84%	88%	88%	84%
学校に行くのは楽しいと思いますか。(肯定回答)	85%	85%	89%	86%	86%	87%
スマートフォンやインターネットを使うときは、危険に巻き込まれる可能性等があることを理解していますか。(肯定回答)	98%	97%	100%	99%	98%	100%

<学校質問調査> ※□は目標値を上回った回答率。

質問項目	小学校			中学校		
	R5	R6	R6 目標値	R5	R6	R6 目標値
教育課程全体で「話すこと」、「書くこと」等の言語活動の充実及び徹底を図っていますか。(積極肯定回答)	44%	47%	51%	39%	39%	43%
学校では、児童生徒の資質・能力の向上に向けて、「確かな学力育成プラン」に基づいて組織的に取り組んでいますか。	64%	70%	65%	50%	51%	54%
「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をもとに幼児児童の姿について(就学前教育施設職員と小学校教員が)共有し、小学校の授業に生かしていますか。(肯定回答)	80%	88%	80%	—	—	—
諸調査の結果や日々の授業から明らかになった児童生徒のつまずきに着目した授業改善を行っていますか。(積極肯定回答)	46%	51%	54%	28%	30%	44%

(2) 積極肯定や肯定回答等の割合が増加傾向であり、これまでの学校の取組の成果として考えられる事項

①児童質問調査（小学校）から

質問項目	R5	R6	比較
自分にはよいところがありますか。(肯定回答)	72%	76%	△ 4
学校で行う鑑賞教室や文化芸術に関する学習、地域に伝わる伝統活動などを通じて、文化芸術への興味がわきましたか。(肯定回答)	69%	71%	△ 2
先生やまわりの人は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。(肯定回答)	81%	83%	△ 2

②学校質問調査（小学校）から

質問項目	R5	R6	比較
児童生徒の応答に切り返したり、ある児童生徒の応答を受けて他の児童生徒に発問したりするなど、学級全体が問題解決に向かうよう発問をつないでいますか。(積極肯定回答)	38.3%	43.9%	△ 5.6
学習方法（自分の解き方や考え方がわかるようにノートをとることや、間違いをやり直すなど）に関する指導をしていますか。(積極肯定回答)	55.8%	62.9%	△ 7.1
児童生徒に対して、根拠や理由を示しながら、自分の考えを説明できるように指導していますか。(積極肯定回答)	50.6%	56.8%	△ 6.2
児童生徒が自分で調べたことや考えたことを、分かりやすく文章に書く指導をしていますか。(積極肯定回答)	32.0%	38.3%	△ 6.3
学校の宿題などに加え、補充のための学習や発展的な問題に、児童生徒が自ら取り組める工夫をしていますか。(積極肯定回答)	22.7%	28.0%	△ 5.3
家庭学習の意義や取り組み方について、主にどのような方法で保護者と共通理解を図っていますか。(複数回答可)			
(回答項目) 保護者会等での説明	59.5%	64.8%	△ 5.3
学校では、児童生徒の資質・能力の向上に向けて、「確かな学力育成プラン」に基づいて組織的に取り組んでいますか。(積極肯定回答)	64.3%	69.7%	△ 5.4
検証可能で明確な「学校全体で重点的に育成を目指す資質・能力」を設定し、全教職員で共有していますか。(積極肯定回答)	62.5%	70.5%	△ 8.0
全国学力・学習状況調査（教科）の結果分析の際、どの資料を用いて行っていますか。(複数回答可)			
(回答項目) 問題、正答例	82.5%	89.8%	△ 7.3
(回答項目) 解説資料（出題の趣旨、解説、解答類型等）	67.7%	76.1%	△ 8.4
(回答項目) 報告書（調査の結果（概要）、問題の内容、課題等、指導改善のポイント等）	65.8%	75.4%	△ 9.6
(回答項目) 報告書（調査の各問題の分析結果と課題、解答類型と反応率、学習指導に当たって等）	55.4%	67.4%	△ 12.0
校内の授業研究会では、指導と評価の一体化の観点から、児童生徒に身に付けさせたい資質・能力が身に付いたかについて協議を行っていますか。(積極肯定回答)	59.5%	67.0%	△ 7.5

③生徒質問調査（中学校）から

質問項目	R5	R6	比較
自分にはよいところがあると思いますか。（肯定回答）	76%	79%	△ 3
学校や地域が行う体験活動では、達成した喜びややりがいなどを感じることができましたか。（肯定回答）	88%	89%	△ 1
先生やまわりの人は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。（肯定回答）	86%	88%	△ 2
国語の勉強は好きですか。（肯定回答）	69%	72%	△ 3
社会の勉強は好きですか。（肯定回答）	78%	81%	△ 3
理科の勉強は好きですか。（肯定回答）	74%	76%	△ 2
英語の勉強は好きですか。（肯定回答）	56%	59%	△ 3
英語の授業の内容はよく分かりますか。（肯定回答）	66%	67%	△ 1
英語の授業では、原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動をしていますか。（肯定回答）	64%	66%	△ 2

④学校質問調査（中学校）から

質問項目	R5	R6	比較
児童生徒の応答に切り返したり、ある児童生徒の応答を受けて他の児童生徒に発問したりするなど、学級全体が問題解決に向かうよう発問をつないでいますか。（積極肯定回答）	25.5%	28.8%	△ 3.3
学校の宿題などに加え、補充のための学習や発展的な問題に、児童生徒が自ら取り組める工夫をしていますか。（肯定回答）	77.9%	80.9%	△ 3.0
生徒一人一人に合った学習計画の立て方や内容について、家庭学習の取組を振り返らせる指導をしていますか。（積極肯定回答）	23.4%	26.7%	△ 3.3
諸調査結果の分析から学年や教科を超えた児童生徒の課題を洗い出しましたか。（積極肯定回答）	37.2%	41.8%	△ 4.6
全国学力・学習状況調査（教科）の結果分析の際、どの資料を用いて行っていますか。（複数回答可）			
（回答項目）問題、正答例	66.9%	76.0%	△ 9.1
（回答項目）解説資料（出題の趣旨、解説、解答類型等）	57.9%	63.7%	△ 5.8
（回答項目）報告書（調査の結果（概要）、問題の内容、課題等、指導改善のポイント等）	56.6%	64.4%	△ 7.8
（回答項目）報告書（調査の各問題の分析結果と課題、解答類型と反応率、学習指導に当たって等）	47.6%	56.2%	△ 8.6
岩手県中学校新入生学習状況調査（教科）の結果分析の際、どの資料を用いて行っていますか。（複数回答可）			
（回答項目）問題、正答一覧	75.2%	80.8%	△ 5.6
（回答項目）調査問題のねらい	50.3%	61.0%	△10.7

質問項目	R5	R6	比較
岩手県小・中学校学習定着度状況調査（教科）の結果分析の際、どの資料を用いて行っていますか。（複数回答可）			
（回答項目）問題、正答一覧	76.6%	81.5%	△ 4.9
（回答項目）調査問題のねらい	50.3%	61.0%	△10.7
本年度の全国学調の分析結果について、同一校区の中学校（小学校）と成果や課題を共有しましたか。（共有した）	24.8%	30.1%	△ 5.3
同一校区の小学校（中学校）と、教育課程の接続や、教科に関する目標設定など、共通の取組を行っていますか。（積極肯定割合）	19.3%	26.7%	△ 7.4
伝統的な文化芸術活動を学習または発表する活動を行っていますか。（積極肯定割合）	47.6%	51.4%	△ 3.8

⑤R6 全国学力・学習状況調査（学校質問調査）結果との比較から

※R6 全国学力・学習状況調査（学校質問調査）結果は、学校が自校の R5 取組の状況等について4月に回答したもの。

※R6 岩手県小・中学校学習定着度状況調査（学校質問調査）結果は、学校が自校の R6 取組の状況等について10月に回答したもの。

質問項目	4月	10月	比較
あなたの学校では、次のような場面で児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。当てはまる番号を1つ選んでください。（児童が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等））			
「ほぼ毎日」と回答した小学校の割合	19.5% (全国 32.7%)	44.4%	△24.9
「ほぼ毎日」と回答した中学校の割合	18.2% (全国 33.0%)	59.7%	△41.5

(3) 積極肯定や肯定回答等の割合が減少傾向であり、今後の学校の取組の課題として考えられる事項

①児童質問調査（小学校）から

質問項目	R5	R6	比較
学校の授業以外で1日にどれくらいの時間、読書をしますか。(30分以上)	39%	37%	▼ 2

②学校質問調査（小学校）から ※昨年度結果において、「今後の学校の取組の課題として考えられる事項」としたもの。

質問項目	R5	R6	比較
児童生徒に示す目標（めあて・ねらい）は、児童生徒の実態や、その時間に扱う学習内容に適したものとなるよう、吟味して示していますか。(積極肯定回答)	72.5%	73.7%	△ 1.2
授業で行う振り返りは、児童生徒自身が学習の成果（又は課題）を実感できる振り返りとなっていますか。(積極肯定回答)	38.7%	40.6%	△ 1.9
児童生徒が分からなかったところや理解していないところを明らかにさせ、解決して（させて）いますか。(積極肯定回答)	35.3%	39.1%	△ 3.8
児童生徒が自分で調べたことや考えたことを、分かりやすく文章に書く指導をしていますか。(積極肯定回答)	32.0%	38.0%	△ 6.0
[R5] どの児童生徒も伸ばすことを意識して、発展的な学習の指導を行っていますか。(肯定回答) [R6] 学習指導において、児童生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか。(肯定回答)	71.5%	85.3%	△13.8
[R5] どの児童生徒も伸ばすことを意識して、発展的な学習の指導を行っていますか。(積極肯定回答) [R6] 学習指導において、児童生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか。(積極肯定回答)	13.8%	19.9%	△ 6.1
学校の宿題などに加え、補充のための学習や発展的な問題に、児童生徒が自ら取り組める工夫をしていますか。(積極肯定回答)	22.7%	27.8%	△ 5.1
家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えていますか。(肯定回答)	67.6%	72.1%	△ 4.5
校内の授業研究会では、指導と評価の一体化の観点から、児童生徒に身に付けさせたい資質・能力が身に付いたかについて協議を行っていますか。(積極肯定回答)	59.5%	66.5%	△ 7.0
教育課程全体で「話すこと」、「書くこと」等の言語活動の充実及び徹底を図っていますか。(積極肯定回答)	43.9%	46.6%	△ 2.7

③学校質問調査（小学校）から ※割合が増加傾向であっても、引き続き課題である事項を含めています。

質問項目	R5	R6	比較
年間に複数回 CAPD サイクルが回るように計画していますか。	56.1%	58.3%	△ 2.2
設定した資質・能力の育成に向けて、全教職員が授業を中心に取り組んでいますか。（積極肯定回答）	64.7%	63.5%	▼ 1.2
児童生徒の変容と教職員の取組の両面から捉えて評価していますか。（積極肯定回答）	49.4%	46.6%	▼ 2.8
諸調査の結果や日々の授業から明らかになった児童生徒のつまずきに着目した授業改善を行っていますか。（積極肯定回答）	46.1%	50.8%	△ 4.7
諸調査の結果から、基礎的・基本的な内容の定着に課題がある場合には、確実な定着を図るための取組を行っていますか。（積極肯定回答）	56.5%	57.9%	△ 1.4
校内の授業研究会では、指導と評価の一体化の観点から、児童生徒に身に付けさせたい資質・能力が身に付いたかについて協議を行っていますか。（積極肯定回答）	59.5%	66.5%	△ 7.0

④生徒質問調査（中学校）から

質問項目	R5	R6	比較
平日、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンを利用しますか。（2時間以上）※経年比較を▼で表記。	60%	65%	▼ 5
学校の授業以外で、平日、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。（1時間以上）	62%	58%	▼ 4
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。（肯定回答）	50%	48%	▼ 2
学校の宿題だけでなく、自主学習に取り組んでいますか。（自主学習とは、自分で学習内容を決めて取り組むことを意味します）。（肯定回答）	53%	52%	▼ 1
学校の授業以外で1日にどれくらいの時間、読書をしますか。（30分以上）	29%	27%	▼ 2

⑤学校質問調査（中学校）から ※昨年度結果において、「今後の学校の取組の課題として考えられる事項」としたもの。

質問項目	R5	R6	比較
児童生徒に示す目標（めあて・ねらい）は、児童生徒の実態や、その時間に扱う学習内容に適したものであるよう、吟味して示していますか。（積極肯定回答）	65.5%	68.8%	△ 3.3
授業で行う振り返りは、児童生徒自身が学習の成果（又は課題）を実感できる振り返りとなっていますか。（積極肯定回答）	33.8%	32.6%	▼ 1.2
児童生徒が自分で調べたことや考えたことを、分かりやすく文章に書く指導をしていますか。（積極肯定回答）	34.5%	33.3%	▼ 1.2
学校の宿題などに加え、補充のための学習や発展的な問題に、児童生徒が自ら取り組める工夫をしていますか。（積極肯定回答）	18.6%	20.1%	△ 1.5
諸調査の結果や日々の授業から明らかになった児童生徒のつまずきに着目した授業改善を行っていますか。（積極肯定回答）	27.6%	29.9%	△ 2.3

⑥学校質問調査（中学校）から

質問項目	R5	R6	比較
学習活動の中において、児童生徒一人ひとりのよい点や可能性を見つけて評価（褒めるなど）する取組を行っていますか。（積極肯定回答）	67.6%	61.1%	▼ 6.5
授業を進める際、児童生徒の間違いを認める雰囲気を作っていますか。（積極肯定回答）	73.1%	66.0%	▼ 7.1
年間に複数回 CAPD サイクルが回るように計画していますか。（積極肯定回答）	42.8%	36.8%	▼ 6.0
設定した資質・能力の育成に向けて、全教職員が授業を中心に取り組んでいますか。（積極肯定回答）	53.8%	50.7%	▼ 3.1
児童生徒の変容と教職員の取組の両面から捉えて評価していますか。（積極肯定回答）	36.6%	29.9%	▼ 6.7
諸調査の結果から、基礎的・基本的な内容の定着に課題がある場合には、確実な定着を図るための取組を行っていますか。（積極肯定回答）	35.9%	31.9%	▼ 4.0

⑦児童生徒調査・学校質問調査の結果から

- ア 「いわて県民計画（2019～2028）」第2期アクションプランに掲げる指標に係る質問（全13項目）に対する回答結果においては、
- ・昨年度の実績値を上回った項目は、小学校が7項目、中学校が5項目
 - ・今年度の目標値を上回った項目は、小学校が4項目、中学校が2項目
- イ 積極肯定や肯定回答等の割合が、特に増加傾向の項目
小学校が30項目／104項目、中学校が28項目／103項目であり、**これまでの学校の取組の成果**として考えられる。
- ウ 積極肯定や肯定回答等の割合が、特に減少傾向の項目
小学校が3項目／104項目、中学校が13項目／103項目であり、**これまでの学校の取組の課題**として考えられる。
- エ なお、各小・中学校においては、指導の一層の充実を図るため、以下の事項を参考にし、今後の取組を推進することが必要。

⑧学力向上に向けた本年度の取組 ※「学校教育指導指針」から抜粋。

＜目標＞ つまずきを生かした児童生徒一人ひとりの資質・能力の向上

＜重点＞ 学校の組織的な取組を土台とした全県共通取組

- ・諸調査結果の積極的活用による検証改善サイクルの構築
- ・主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業研究の活性化
- ・児童生徒の発達の段階を考慮した家庭学習の内容の充実と習慣化
- ・学習の基盤となる言語能力の育成

＜具体的取組＞

下記のア～エについて、全県での共通の取組として、学校の組織的な取組の一層の強化を図る。

ア 諸調査結果の積極的活用による検証改善サイクルの構築

- ① 校長のリーダーシップの下で、自校が作成した「確かな学力育成プラン」に基づいて、主任層が中心となり、年間を通した取組で資質・能力の育成を図る。
- ② 諸調査の結果から学年や教科を越えた課題を洗い出し、全教職員で課題解決を図る。
- ③ 各教科で解決すべき課題について、教科担当を中心に校種や学年を越えた学習内容の系統性を踏まえた課題解決を図る。

イ 主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業研究の活性化

- ① 単元や題材など内容や時間のまとまりで、身に付けさせたい資質・能力を明確にした授業づくりを実践する。
- ② 研究協議では、指導と評価の一体化の観点から、児童生徒に身に付けさせたい資質・能力が身に付いたのかについて協議し、各教科の共通理解を図る。
- ③ 授業研究会や互見授業の目的、授業を見る視点等を校内で共有し、授業づくりについて校内の人材を積極的に活用しながら学年や教科を越えて教師同士が学び合う場を設定する。
- ④ 学校の実情に応じて、ICT 活用の目的や方法、場面等について学び合う場を設定する。

ウ 児童生徒の発達の段階を考慮した家庭学習の内容の充実と習慣化

- ① 家庭学習については、意義と自身の家庭での生活を関連付けて考えさせたり、学習計画の立て方や学び方について振り返らせたりしながら個々に合った学習習慣を確立させる。
- ② 家庭学習を宿題と自主的・自発的な学習に分け、自主的・自発的な学習については、個々の学習内容や取組方法等について評価したり、アドバイスしたりしながら質的な改善を図る。
- ③ ICT の活用を学校内に留めず、新たな学びのツールとして家庭学習での活用についても校内で共通理解を図り、保護者の理解と協力を得ながら活用の充実を図る。
- ④ 幼小中高といった異校種間の連携の視点とする。

エ 学習の基盤となる言語能力の育成

- ① 教育課程全体で「話すこと」、「書くこと」の指導の充実及び徹底を図る。
- ② 授業においては各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付ける。
- ③ 幼小中高といった異校種間の連携の視点とする。

Ⅲ 学校の組織的取組の一層の強化に向けた学校支援と各公所の連携

1 学校の組織的取組の一層の強化に向けた学校支援

県教育委員会では、「確かな学力の育成のための目標と重点」を、上記「Ⅱ 2 (3) ⑧学力向上に向けた本年度の取組」のとおり示しており、その実現に向けて、学校の組織的取組の一層の強化に向けた「確かな学力育成プラン」に基づく学校支援に取り組んでいる。

2 各公所の連携

各機関が連携し、調査結果を踏まえた取組を推進することが必要。

(記載内容は、「令和6年度岩手県中学校新入生学習状況調査結果の概要について」と同様。)

(1) 学校 ※本資料「Ⅱ 1 (6)」に記載のとおり。

(2) 市町村教育委員会

所管の学校の調査結果についての分析を進めた上で、各学校に対しては、状況に応じて、以下の事項について取り組むことが考えられる。

- ・本資料や結果分析資料を、校長会議や主任層を対象とした会議・研修会等で活用し、小・中学校が校種を越えて児童生徒のつまずきへの対応や資質・能力の育成に向けて取り組めるよう、改善を促す。
- ・「確かな学力育成プラン」に基づいた取組について、支援を継続する。
- ・資質・能力の育成を目指す授業研究会の在り方について、各校への指導・助言を強化する。
- ・その他、必要な指導、助言や支援等を行う。
- ・学校における諸課題について、改善の取組を促すとともに積極的に支援する。

(3) 教育事務所

管内の学校の調査結果についての分析を進めた上で、市町村教育委員会と連携し、以下の事項について取り組むことが考えられる。

- ・各学校における調査結果の分析を活用した「確かな学力育成プラン」を基にした組織的な取組の強化について、各種研修会や訪問指導等を通じて、継続的に支援していくこと。
- ・教科調査等で明らかになった課題について、その解決を図るための授業について提案する機会を持つ。
- ・その他、必要な指導、助言や支援等を行う。
- ・学校における諸課題について、改善の取組を促すとともに積極的に支援する。

(4) 県教育委員会

教育事務所、市町村教育委員会と連携し、以下の事項について取り組む。

- ・教科調査結果と質問調査結果から分析資料を作成し、各学校での分析の手法として提供していく。
- ・各学校における調査結果の分析を活用した「確かな学力育成プラン」を基にした組織的取組の強化について、各種研修会や訪問指導等を通じて、継続的に支援していく。
- ・分析結果を各学校への訪問の際に活用しながら、授業改善に活かし、指導と評価の一体化を一層推進していく。
- ・諸調査結果を効果的に活用し、組織的取組を土台とした授業改善を推進する学校の実践事例の普及・拡大に取り組む。
- ・資質・能力の育成を目指した授業研究会の在り方や、研究主任への指導について、指導主事と共通理解を図る。
- ・必要な指導、助言や支援等を行う。
- ・学校における諸課題について、改善の取組を促すとともに積極的に支援する。